

平成 26 年度 新技術・地域資源開発補助事業

市町村名	埼玉県秩父市	
事業名	秩父地域の新たな林業振興におけるキハダ（黄檗）を活用した清涼飲料の開発	
企業等概要	企業等の名称	秩父樹液生産協同組合
	代表者氏名	代表理事 山中 敬久
	所在地	埼玉県秩父市大滝 1805-1
	連絡先	0494-55-0122
	URL	http://acermono.com/

平成 28 年 3 月現在

【事業者概要】

秩父市大滝地区の豊富な山林資源を利用し、様々な製品開発に取り組んでいる樹液生産者の協同組合。



【事業概要】

◇背景・経緯

キハダはミカン科の落葉高木で、その黄色の内皮にはベルベリンなどの強い抗菌作用をもつ薬用成分が含まれ、昔から健胃整腸剤として用いられてきた。また、その独特の苦味は眠気防止や食品添加物、染料などに用いられてきた。

現在、キハダ供給量の多くは中国などからの輸入に頼った現状にあり、国産品はきわめて貴重なものとなっているが、秩父地域の森林にはキハダが広く分布する。

本事業は、キハダの内皮を煎じてベルベリンを抽出し、秩父地域内で生産される柚子やカボスなどの果汁を加えて、爽やかなのが味をもつサイダーを開発するもの。

薬草・薬木資源として秩父の豊かな森林を見直すとともに、林業と医薬との新たな次元での結びつきを創造する。



キハダの樹木

◇研究開発の概要

秩父地域に多くの資源量を誇るキハダを使い、新たな活用策として清涼飲料水（キハダのが味入りサイダー）を開発した。

キハダは、その成分であるベルベリンが医薬品に分類されるため、原材料としてそのまま販売を行うには、薬事法上の諸条件を満たす必要があり、中小規模の製造業者にはノウハウ・コストとともに困難であったが、日本薬科大学の協力により食品添加物として利用することで製品化が可能となった。



開発したサイダー

【成果】

◇新規性

- ・これまで多くが活用されずに賦存していた森林資源の有効活用策が見出されるとともに、特産物として商業的にも地域振興に貢献することにつながった。
- ・これまで生薬として使われてきたキハダをより身近な形態で飲むことで、自然の味が手軽に楽しむことができる。

◇商品化・販売先

平成27年7月から5,000本を製造し、商品名「秩父・森の恵み 今日もスッキリキハダの味が味」として販売を開始した。

商品開発で連携した日本薬科大学の他、道の駅、秩父地域外の温浴施設、インターネット等で販売している。販売単価は250円（税別）であり、主に観光客の土産物としてのニーズに対応している。さらに、都内スーパーでの試験販売も予定している。

現在、当初製造した5,000本が完売したので、さらに5,000本を製造し、そのうち3,000本程度が売れたところである。

【今後の展望】

キハダサイダーの開発と同時に行った化粧品の開発については、試作品を完成させ、販売に向けて準備を進めているところである。

その他、キハダを使った割り材や他の樹木を使った新商品なども検討しており、今後はこれらを合わせて「秩父・森の恵み」シリーズとして販売する予定である。



1.伐採



2.剥がされる樹皮



3.加工



4.サイダーの製造